



Cisco TelePresence Management Suite 15.9

ソフトウェア リリースノート

初版: 2019年9月

はじめに

変更履歴

表 1 ソフトウェアリリースノートの変更履歴

日付	変更内容	理由
2019 年 4 月	ソフトウェアのリリース	Cisco TMS 15.9

製品マニュアル

次のドキュメントでは、製品のインストール、初期設定、および動作についてのガイダンスを提供します。

- [『Cisco TelePresence Management Suite Installation and Upgrade Guide』](#)
- [Cisco TelePresence Management Suite アドミニストレータ ガイド](#)
- [Cisco TMS 拡張機能導入ガイド](#)

15.9 の新機能

Cisco TMS 診断ファイルを使用した IIS ログの抽出

Cisco TMS には新しい機能が導入されています。この機能を使用すると、Cisco TMS のログに伴い、zip ファイルに IIS ログをダウンロードできます。Cisco TMS は、ローカルマシンに保存されている IIS ログのダウンロードをサポートしています。

Cisco TMS がインストールされると、IIS ログの場所がレジストリに格納されます。Cisco TMSis をインストールした後、IIS のログの場所が変更された場合は、レジストリで IIS の場所を手動で変更する必要があります。また、の権限を手動で設定する必要があります。

BAPI トランザクションの変更

Cisco TMS では、`GetTransactionSince` API を使用して、`systemid` に基づいて会議トランザクションを取得できるようになりました。

Cisco Meeting Management の電話帳 (Phonebook) へのアクセス

Cisco TMS では、Cisco Meeting Management が電話帳 (Phonebook) の社内ディレクトリにアクセスできるようになりました。Cisco meeting Management は、**電話帳 (Phonebook) > Cisco Meeting management の電話帳 (Phonebook)** から設定できます。

Cisco Meeting Management サーバで電話帳を設定および構成する場合、この機能を使用するには、**管理ツール > ユーザ > グループ** でアクセス権限を設定する必要があります。

注: この機能とそのマニュアルは、まもなく Cisco Meeting Management で入手できます。

SQL サーバ 2012 サポート

Cisco TMS は、このリリースで SQL Server 2012 のサポートを再導入しました。

Cisco Webex Board

Cisco TMS は、CE9.x ソフトウェアの Cisco Webex Board エンドポイントをサポートするようになりました。

以前のリリースの機能

以前のリリースの新機能の詳細については、次のリンクを参照してください:

[Cisco TMS 15.8](#)
[Cisco TMS 15.7](#)
[Cisco TMS 15.6.1](#)
[Cisco TMS 15.6](#)
[Cisco TMS 15.5](#)
[Cisco TMS 15.4](#)
[Cisco TMS 15.3](#)
[Cisco TMS 15.2.1](#)
[Cisco TMS 15.1](#)
[Cisco TMS 15.0](#)
[Cisco TMS 14.6.2](#)
[Cisco TMS 14.6.1](#)
[Cisco TMS 14.6](#)

解決済みの問題および未解決の問題

次のリンクをクリックして、このリリースで解決済みの問題と未解決の問題に関する最新情報をご覧ください。

https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283688292&rls=15.9&sb=anfr&bt=custV

Cisco バグ検索ツールにログインした後、ブラウザを更新する必要があります。

制限事項

機能	制限事項
サポートされるタイムゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ■ Cisco TMS サーバのタイムゾーンを変更することはできません。 ■ DST の日付やタイムゾーンのリージョンへの変更などの国際タイムゾーンの修正は、Microsoft Windows 更新によって Cisco TMS サーバと Cisco TMS で自動的に更新されます。Cisco TelePresence TE または TC ソフトウェアを実行しているエンドポイントについても同じです。これらのエンドポイントには、手動で定義されたタイムゾーンのリストがあるため、DST 日付またはタイムゾーンリージョンへの変更は反映されません。これにより、直接管理されているエンドポイントでタイムゾーンの不一致エラーが発生する可能性があります。スケジューリングは影響を受けませんが、Cisco TMS はタイムゾーンデータの読み取り/書き込みに失敗する可能性があります。

機能	制限事項
Cisco TMS で TelePresence Conductor のスケジュールリング	<ul style="list-style-type: none">■ TelePresence Conductor は、会議と会議の間でリソースを解放するまでに最大 30 秒待機する場合があります。そのため、参加者が会議への参加と退席を繰り返した場合に、立て続けの会議のインバウンド コールおよびアウトバウンド コールの拒否と、使用率の急増が発生する可能性があります。バグツールキットの識別子: CSCuf34880。 この制限は、テレプレゼンス導線および Cisco TMS のリリース後に対処されます。■ Cisco TMS では、複数のテレプレゼンス導線クラスタノードを追加できますが、スケジュールリングにはプライマリテレプレゼンス導線のみを使用できます。■ Cisco TMSPE によって生成されたコラボレーション会議室のスケジュールはサポートされていません。
TSP の音声と会議の内線番号	2 つの会議に WebEx によって同じ TSP 音声番号が割り当てられている場合、会議を延長するかどうかを決定する際に、Cisco TMS はこれを認識しません。これは、同じ音声参加者を含む 2 つの会議につながる可能性があります。

機能	制限事項
モニタリングとレポート	<ul style="list-style-type: none"> ■ FindMe と複数の方法を使用した会議では、以下で重複が発生する可能性があります。 会議制御センター および関連するレポート。 ■ 参加者が保留になっているか、または転送された会議は、で重複を引き起こす可能性があります。会議制御センターとレポート。 ■ 会議制御センターとグラフィカルモニタは、Google Chrome バージョン 42 以降、Firefox 52 以降、Opera、Microsoft Edge では機能しません。Netscape プラグインアプリケーション プログラミングインターフェイス (NPAPI) のサポートが Google Chrome および Firefox の今後のリリースで完全に削除されるまで、次のオプションを試して会議を開くことができます。 コントロールセンターとグラフィカルモニタ: <ul style="list-style-type: none"> - Internet Explorer バージョン 10 または 11 を使用します。 - Firefox のデフォルト設定を上書きして、Firefox 52 (32 ビット) でのみ NPAPI プラグインサポートを再度有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> a. Firefox 52 (32 ビット) でのみ NPAPI プラグインを有効にするには、about: config 設定を使用します。新しいブール文字列プラグインを追加して、false に設定します。 b. ブラウザを再起動します。 - Firefox 52 (32 ビット) ESR (拡張サポートリリース) のみをダウンロードして使用します。NPAPI プラグインは 2018 年 3 月まで機能します。 注: Firefox 52 (32 ビット) ESR (拡張サポートリリース) がインストールされている場合は、他のスタンドアロンの Firefox ソフトウェアバージョンがインストールされていないことを確認してください。 - Google Chrome で IE タブ拡張を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> a. Chrome (https://www.ietab.net/) 内で INTERNET EXPLORER (IE)を実行します。 b. [IE] タブの拡張機能が Google Chrome にインストールされている場合、Google Chrome のアドレスバーの横に表示される IE アイコンをクリックできます。 ■ 参加者のスナップショットおよびイベントログデータの自動更新機能 会議制御センターは、どのバージョンの Google Chrome でも機能しません。 ■ 会議の詳細が会議制御センターに徐々に表示されるのは、通信セキュリティが TMS ツール > セキュリティの設定で高 > トランスポート層セキュリティのオプションに設定されているときです。 ■ パフォーマンスを向上させるには、次のいずれかを実行することをお勧めします。 <ul style="list-style-type: none"> - TMS ツール > セキュリティの設定 > トランスポート レイヤーのセキュリティオプションで通信セキュリティの 中または中高 セキュリティモードを選択します。 - 会議制御センターで使用するユーザ数を、以下の場合に減らします。 通信セキュリティが高に設定されます。

機能	制限事項
WebEx	<ul style="list-style-type: none"> ■ 一部の高度な繰り返しパターンはサポートされません。新しい会議ページから予約する場合は、サポートされている繰り返しパターンのみを表示するように繰り返しパターンを指定する前に WebEx を含めてください。 ■ 1 つのインスタンスが進行中に定例会議シリーズを削除すると、Cisco TMS では会議が削除されますが、WebEx では削除されません。これは、WebEx が進行中の会議に変更を許可しないためです。これには削除が含まれます。 ■ Cisco TMS ツールの通信セキュリティに対して中高または高オプションを選択すると、Cisco tms の一部またはすべての機能が失われます。 ■ 会議が WebEx で予約されている場合、後で Cisco TMS で会議の所有者を変更すると、会議の所有者の詳細は Cisco TMS でのみ反映され WebEx では反映されなくなります。さらに、Cisco TMS で会議を更新しようとする、エラーが発生する可能性があります。
コラボレーション Edge	Cisco TMS は現在、コラボレーション Edge の背後にあるデバイスをサポートしていません。
Expressway	Cisco Expressway-C と Cisco Expressway-E は、システムタイプ TANDBERG VCS を使用して Cisco TMS に表示されます。
System Type フィールド	以前にシステムタイプで TANDBERG が含まれていた一部のシステムは、Cisco TMS で引き続き TANDBERG として表示される場合があります。これは主に、システムの API からシステムタイプを直接読み取る Cisco TMS に基づいています。場合によっては、Cisco TMS によって、API を介して使用できなかったシステムタイプが追加されている場合があります。そのため、名前はシステムタイプの TANDBERG で表示され続けることがあります。
下部バナー	Cisco TMS ツールで下部バナーが有効になっている場合、Internet Explorer 10 で Cisco TMS Web アプリケーションを使用して、強化されたセキュリティ設定を有効にすると、ウィンドウの下部にあるリンクとボタンが無効になります。
Cisco TMSPE は、Cisco TMS と通信できない	<p>セキュリティモードがに設定されている場合、Cisco TMSPE は、Cisco TMS と通信できない。</p> <p>Cisco TMS 15.6 以降のバージョンでは高になっています。</p> <p>この制限は、Cisco TMSPE の将来のリリースで対処されます。</p>
TelePresence Conductor のクラスタリング	<ul style="list-style-type: none"> ■ プライマリテレプレゼンス導体がダウンしている場合、エイリアスに対するフェールオーバーはサポートされません。プライマリ TelePresence Conductor がダウンしているときに管理者がピア TelePresence Conductor の一部のエイリアスを変更した場合、プライマリノードがアクティブになるまで、ピアの TelePresence Conductor のエイリアスを TMS で更新することはできません。 ■ このリリースでは、プライマリ TelePresence Conductor からのフィードバックのみが Cisco TMS によって処理されます。これは、プライマリ TelePresence Conductor がダウンしている場合に、アドホック解決が影響を受ける可能性があることを意味します。 ■ このリリースでは、スケジューリング、ルーティング、およびロードバランシングのためのクラスタ化された TelePresence Conductor のサポートはありません。
IX エンドポイント上の電話帳	<p>IX エンドポイントを追加すると、Cisco TMS はソフトウェアバージョンを検出できません。</p> <p>[システム] > [ナビゲータ] 用の IX エンドポイントの電話帳タブは、バージョン 8.2 に対してのみ設定できます。8.2 より古いバージョンを追加する場合、IX エンドポイントでは Cisco TMS の電話帳データを取得できません。</p> <p>電話帳を設定してエンドポイントから使用するには、IX バージョン 8.2 を追加する必要があります。</p>

機能	制限事項
仮想マシンでは、次の製品バージョンのネットワーク接続が断続的に途絶えます。 <ul style="list-style-type: none"> VMware ESXi 5.0.x VMware ESXi 5.1.x VMware ESXi 5.5.x VMware ESXi 6.0.x 	E1000/E1000e ドライバを使用する Windows 2012 仮想マシンでは、ネットワーク接続の損失が発生します。この問題は、次の環境で発生します。 <ul style="list-style-type: none"> 仮想マシンは Windows 2012 または Windows 2012 R2 です。 仮想マシンでは、E1000 または E1000E ドライバが使用されます。 この問題の回避策は、E1000 または E1000e ドライバではなく VMXNET3 を使用することです。詳細については、次の記事を参照してください。 https://kb.vmware.com/selfservice/microsites/search.do?language=en_US&cmd=displayKC&externalId=2109922
Cisco TMS でのスケジュールされた会議	24 時間以上スケジュールされた会議と重複している場合、Cisco TMS は会議を繰り返し予約できない場合があります。 Bug toolkit キットの識別子: CSCux64873。
Cisco Meeting Server ステータス	CISCO TMS は、進行中の会議で Cisco Meeting Server が停止したときに、 会議イベントログ へのメインシステムのログインからの応答を表示しません。
スケジュール済み会議を無視し、アクティブコールを続ける (Ignore Scheduled Meeting and Continue Active Call)	この機能は、ブリッジがエンドポイントにダイヤルしている場合にのみ機能します。
システムの追加	<ul style="list-style-type: none"> IPv4 および IPv6: Cisco TMS は、IPv4 を介してシステムを追加します。また、同じシステムを IPv6 経由で追加することもできます。その逆も同様可能です。 ホスト名と IPv6 の経由: ホスト名を使用して Cisco TMS に Cisco Meeting Server を追加する場合、異なるシステム ID の IPv6 を使用して同じ Cisco Meeting Server を Cisco TMS に追加することもできます。
Cisco Meeting Server	<ul style="list-style-type: none"> 会議イベントログには、外部ダイヤルラインに関する情報はありません。 Cisco Meeting Server 2.1 では、リダイヤル動作の重複を防ぐために、会議設定>接続タイムアウトの値を最小の 45 秒に設定する必要があります。
プライベート会議	プライベート会議機能は、特定のエンドポイントのプライバシーモードで異なります。 注: CTS などの既知のエンドポイントでは、予定されている会議リストに会議のタイトルを表示しないようにプライバシー設定が設定されています。
サポートされる Cisco VCS のデフォルト以外のポート	Cisco TMS のデフォルト以外のポートを使用して Cisco VCS を追加した場合、SNMP ディスカバリは実行できません。これは設計上の既知の制限事項であり、Snmp チケットをクリアするには、Snmp コミュニティ名を システムナビゲータ に手動で追加する必要があります。
Cisco TMS LiveService で、参加者を特定の coSpace と適切に関連付けられていない	この問題は、Cisco TMS の Cisco Meeting Server との統合に使用できるポーリングまたはフィードバックメカニズムがないために発生します。Cisco TMS は、参加者が外部 (Cisco TMS で管理されていない) の coSpaces の一部である場合、正しく識別できません。 このような使用例では、テレプレゼンスサーバ/MCU ブリッジを使用します。
予約招待電子メール (Booking Invite email) に非マルチサイトビデオアドレスを含んでない	マルチサイトエンドポイントと非マルチサイトエンドポイントの組み合わせを使用して会議をスケジュールし、ダイヤルアウトとしての方向でブリッジが関与していない場合。次に、予約招待電子メール (Booking Invite email) には、マルチサイトエンドポイントと非マルチサイトエンドポイントの両方に対するすべての参加者 URI が含まれます。

機能	制限事項
SuperCOP ファイル	サイズが 2 GB を超える SuperCOP ファイルはサポートされていません。SuperCOP ファイルが 2 GB を超えている場合は、エンドポイントごとに個別の COP ファイルを使用する必要があります。
イベントログ (Event log) は、Cisco Meeting Server 展開でコールが接続された状 態にある場合でも、エンドポ イントの CUCM ダイアルの コールが切断されたことを示 します。	これを機能させるには、CUCM ルートパターンで適切な設定を行って、Cisco TMS の URI とエンドポイントの接続時間にある URI が同じであることを確認する必要があります。Cisco TMS は、エンドポイントからのフィードバックログに基づいて、会議を接続済みまたは切断済みとしてマークします。
参加者テンプレート (Participant Template)	Cisco Meeting Server を使用して参加者テンプレートを作成した場合、 [再利用可能] オプションはダイアルアウトでは機能しません。
早期参加時間中に、管理対 象エンドポイントの参加者 はスケジュールされた会議 から削除される	「早期参加時間」の間に、TMS で管理されているエンドポイント参加者がスケジュール済み会議から削除されると、会議の開始時に LiveService がそのエンドポイントの既存のアクティブコールを切断します。
早期参加に関する注意事項	「早期参加時間」の間に、TMS で管理されているエンドポイント参加者がスケジュール済み会議から削除されると、会議の開始時に LiveService がそのエンドポイントの既存のアクティブコールを切断します。

相互運用性

この製品の相互運用性テストの結果は、<http://www.cisco.com/go/tp-interop> に投稿され、にその他の Cisco テレプレゼンス製品の相互運用性テストの結果もここで確認できます。

冗長展開をアップグレード

する前の 15.9 へのア

ップグレード

冗長 Cisco TMS の導入を使用しているお客様は、[Cisco テレプレゼンスのアップグレード手順](#)を参照する必要があります。Cisco TMS 15.9 にアップグレードする前に、『[Management Suite Installation And Upgrade Guide 15.9](#)』を参照してください。

14.4 または 14.4.1 からのアップグレード

Cisco TMSXE または Cisco TMSXN を使用する 14.4 または 14.4.1 からアップグレードする場合は、CISCO TMS 15.9 にアップグレードする際に、『[Cisco TelePresence Management Suite Installation and upgrade Guide 15.9](#)』で説明されているアップグレード手順に従う必要があります。

14.2 より前のバージョンからのアップグレード

バージョン 14.2 以前のバージョンの Cisco TMS からアップグレードする場合は、Cisco TMS 15.9 にアップグレードする前に、『[Cisco TelePresence Management Suite のインストールおよびアップグレードガイド 15.9](#)』のアップグレード手順を参照する必要があります。

前提条件とソフトウェアの依存関係

互換性のあるオペレーティングシステムとデータベースサーバの完全なリストについては、『[Cisco TelePresence Management Suite Installation And Upgrade Guide](#)』を参照してください。

アップグレード手順

Cisco TMS は、Cisco TMS の新規インストールと以前の Cisco TMS バージョンのアップグレードの両方に同じインストールプログラムを使用します。

注: Cisco TMS 15.9 にアップグレードする前に、Windows アップデートが最新の状態であることを確認します。

アップグレードまたは導入の詳細な手順については、『[Cisco TelePresence Management Suite Installation and Upgrade Guide](#)』を参照してください。

Bug Search Tool の使用

バグ検索ツールには、問題の説明と利用可能な解決策など、このリリースおよび以前のリリースの未解決の問題と解決済みの問題に関する情報があります。これらのリリースノートに示されている ID によって、それぞれの問題の説明に直接移動できます。

このマニュアルに記載された問題に関する情報を検索するには、次の手順を実行します。

1. Web ブラウザを使用して、[バグ検索ツール](#) に移動します。
2. cisco.com のユーザ名とパスワードでログインします。
3. **検索**フィールドにバグ ID を入力し、**検索**をクリックします。

ID がわからない場合に情報を検索するには、次の手順を実行します。

1. **検索**フィールドに製品名を入力して**検索**をクリックします。
2. 表示されるバグのリストで**フィルタ**ドロップダウンリストを使用し、**キーワード**、**変更日 (Modified Date)**、**重大度 (Severity)**、**ステータス (Status)**、または**テクノロジー (Technology)**のいずれかでフィルタリングを行います。

バグ検索ツールのホームページで**詳細検索**を使用して、特定のソフトウェアバージョンを検索します。

Bug Search Tool のヘルプページには、Bug Search Tool の使用に関する詳細情報があります。

マニュアルの入手方法およびテクニカルサポート

資料の入手方法、Cisco Bug Search Tool (BST) の使用方法、サービスリクエストの送信および追加情報の収集方法については、www.cisco.com/c/en/us/td/docs/general/whatsnew/whatsnew.html で『What's New in Cisco Product Documentation (Cisco 製品資料の更新情報)』を参照してください。

『What's New in Cisco Product Documentation』は、Cisco の新規および改訂版の技術ドキュメンテーションの一覧も示し、RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツをデスクトップに配信することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。



Cisco の法的情報

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェアライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

Cisco が導入する TCP ヘッダー圧縮は、カリフォルニア大学バークレー校 (UCB) により、UNIX オペレーティングシステムの UCB パブリック ドメイン バージョンの一部として開発されたプログラムに適應したものです。全著作権所有。著作権 ©1981、カリフォルニア大学理事。(Copyright © 1981, Regents of the University of California.)

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。Cisco およびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、Cisco およびその供給者は、このマニュアルに適用できるまたは適用できないことによって、発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性が Cisco またはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワークポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

印刷版と複製ソフトは公式版とみなされません。最新版はオンライン版を参照してください。

Cisco は世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号については、Cisco のウェブサイト www.cisco.com/go/offices をご覧ください。

© 2019 Cisco Systems, Inc. 全著作権所有。

Cisco の商標

Cisco および Cisco ロゴは、Cisco またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Cisco の商標の一覧については、www.cisco.com/go/trademarks をご覧ください。掲載されている第三者の商標はそれぞれの権利者の財産です。「パートナー」または「partner」という用語は、Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1110R)

